

第6学年 特別活動（学級活動）指導案

作成日時： 年 月 日

指導者：

1. 題材 突然、人が倒れたとき、勇気を出してかかわろう！

2. 題材について

(1) 学習指導要領の位置付け

(学級活動(2)ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成)

○ 学級活動における位置付け

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件・事故・災害等から身を守り安全に行動すること。

(2) 他教科等との関連(学習指導要領及び解説)

○ 体育(第5学年及び第6学年) 解説 G 保健(2)けがの防止 ア(イ)㊦

けがをしたときには、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの大人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。

○ 理科(第6学年) B 生命・地球(1)ア(ウ)

血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。

○ 特別の教科道徳(第5学年及び第6学年) D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

(3) 育成を目指す態度として

○ 緊急事態であっても、危険を察知し、自らの安全を守りながら勇気を持ち冷静に行動することができる。

○ 日頃から消防の役割や AED 設置の場所などに関心を持ち、社会における人の命を守るしくみを考え、事前に備えることができる。

○ 自他の命を尊重しながら、主体的にいじめや自殺などについて考えることができる。

3. 題材設定の目標・理由

本題材は、心身ともに健康で安全な生活態度の形成に関わる内容である。突然、人が倒れるという現場に児童が居合わせることは十分に考えられる。このような緊急事態でも、自らの安全を守りながら迅速に行動を起こすことは、自他の生命を守る上でとても重要である。

小学生でも心肺蘇生の概要を学び、「自分にできること」として、近くにいる大人に知らせる、119 番通報する、AED を持ってくるなどがあることを導く。さらに、このような行動でさえも状況に応じて適切な判断で行動することが大切だと実感させる。突然、人が倒れたとき「自分にできること」を積極的に実施することで救える命があると理解し、命の大切さに気づく機会とするため本題材を設定した。

4. 本題材の指導

事前に、体育科保健領域「(2) けがの防止 イ けがの手当」を学習し、けがをしたときには、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの人に知らせることが大切であることを学ぶ。

この発展として、突然、人が倒れたという状況での対応を考えていく。児童が第一発見者になったとき、心停止が想起でき、「自分にできること」を考え、積極的に関わることの重要性など技能及び心理についても着目する。

突然、人が倒れたという状況だけでなく、地震、洪水、暴風等の災害においても、自分の身を守ることが最優先であることを自覚し、勇気を出して行動することの大切さを考える機会としたい。

5. 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
自己の生活上の課題の改善に向けて自主的に取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身につけている。	豊かな学級や学校の生活をつくるために、自己の生活上の課題について話し合い、自ら解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協同して自己の生活上の課題の解決に向けて、粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしていたりしている。

6. 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
体育科保健領域「けがの防止」で学習したことを想起する。 理科「人の体のつくりと働き」で学習したことを想起する。	登下校時、及び体育、家庭、図工などの授業中に想定される事故やけがについて注意喚起を行い、予防（危険の察知）の大切さを確認する。	突然の心停止で倒れ、その場にいた人たちによる処置で救命されたニュース等に関心を持ち、自分ごととして積極的に考えられる。 【思考・判断・表現】（観察）

7. ねらい

- 突然倒れた人への対応として必要な知識や行動の仕方について学び、状況に応じて自らの安全を守りながら「自分にできること」は積極的に協力できるようにする。

8. 展開

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 (15分)	<p>1. 下記事例をもとに小学生のAさんが考えていることについてブレインストーミングを行う(2分)。</p> <p>【事例】友達と遊ぶ約束をしていたAさんが、約束の時間に遅れそうになり急ぎ足で公園に向かっていると、知らない大人の男性が突然倒れるのを目撃した。</p> <p>2. 一つ一つの意見を分類し、どのような理由で分類されたのかを考える。</p>	<p>○ 4人程度のグループをつくる。</p> <p>○ 黒板(またはホワイトボードや電子黒板/以下、黒板等)に貼り付けやすい短冊(またはタブレット/以下、短冊等)を用意する。</p> <p>○ 一つ一つの意見を大切に、自由に多くの意見が出るように配慮する。</p> <p>○ グループで意見をまとめる担当を決めておくのもよい。</p> <p>○ 出てきた意見を「積極的」「消極的」に分類する。その後、どのように分類されているかを児童に問う。</p> <p>《消極的な気持ち》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしよう ・ 知らなかったふりして行く ・ 知らない人なのでこわい ・ 急いでいるのでごめんなさい ・ 友達との約束を優先してしまう <p>《積極的な気持ち》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助けなきゃ ・ 救急車を呼ばなきゃ ・ 大人を呼んでこよう <p>○ 突然人が倒れるなど緊迫した状況下では、積極的に関われない気持ち《消極的な気持ち》を抱くのは、自然なことだと気づかせる。</p>
突然、人が倒れたとき、勇気を出して関わることの大切さについて考える。		
展開 (20分)	<p>3. 突然、人が倒れたとき「心停止」の可能性を知り、積極的に関わる気持ちが大切であることを理解させる。</p> <p>4. 心臓がブルブルと痙攣している状態も「心停止」であると知る。</p> <p>5. 「心停止」のときに必要な処置は、《胸骨圧迫》,及び《AEDによる電気ショック》であることを知る。</p>	

	<p>6. 《胸骨圧迫》は、ポンプ機能を失った心臓の代わりに胸の上から圧迫して、心臓から血液を押し出す処置であると説明する。</p> <p>7. 《AED》を画像、訓練用AED、実機等を用いて紹介する。また、ブルブルと痙攣している心臓に電気ショックを与え、心臓を正常な動きに戻す機械であると説明する。</p> <p>8. 学校内のAED設置場所を確認する。</p> <p>9. 【事例】について「自分にできること」を話し合う。</p> <p>10. 「自分にできること」の中で最も大切な行動の一つである「大人を呼ぶ」の実習として「誰かきてくださ～い！」と大声で叫ぶ体験から、実際に行動するには勇気が必要であると実感する。</p> <p>11. 人を助けるために行動することはとても大切なことだが、自分の身を守ることはもっと大切なことだと理解する。</p>	<p>○ 図や絵を利用し、わかりやすく説明する。</p> <p>* 資機材があれば、胸骨圧迫、及びAEDの使い方の体験実習をしてもよい。</p> <p>○ 「大人を呼ぶ」「119番通報」「AEDの要請」「AEDを取りに行く」等があると導く。また、119番通報をすると口頭指導が得られることも伝える。</p> <p>○ 数名の児童に叫んでもらい、感想を聞く。 ・ 一人だけで叫ぶことを想像させ、「怖い」「恥ずかしい」などの想いが湧くことに気づかせる。 ・ 最後に、全員で叫ばせる。</p> <p>○ 「交通量が多い道路の反対側にある歩道で突然、人が倒れるのを目撃した」など具体的な状況を提示しながら説明する。</p> <p>◆ 突然、人が倒れたという状況で、第一発見者に必要となる知識・行動を理解している。 【知識・技能】</p>
<p style="text-align: center;">終末 (10分)</p>	<p>12. 救命処置の一連の流れを動画で見せる。</p> <p>13. 本時で学んだことを振り返り、「自分にできること」を考え、発表する。</p>	<p>○ 実演では、倒れるところの目撃から、「大人を呼ぶ」までを児童に演じさせる。</p> <p>○ 訓練用人形、及び訓練用AED等があれば、教師が実演してもよい。</p> <p>○ 次の3点を押さえる。 1. 積極的に関わること 2. 積極的に関わるために心肺蘇生法につ</p>

<p>終末 (10分)</p>	<p>いて学習したこと</p> <p>3. 必ず,安全を確認してから行動すること</p> <p>○ 本時は「命」を扱う内容であり,友達同士では決して<u>胸骨圧迫を行わない</u>と伝える。</p> <p>○ 心肺蘇生法(胸骨圧迫・AEDの使い方)は中学校でより深く学ぶこと,訓練用人形があれば,「胸骨圧迫」を保健室等で体験できることを伝える。</p> <p>◆ 日頃から「身の回りの危険」に関心を向け,自らの安全を守るため危険を回避する行動がとれる。</p> <p>緊急時は,自らの安全を守ることを優先しながら,「自分にできること」については勇気をもって行動すると決意している。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>
---------------------	---

7. 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>学校内,及び学区内に設置されている AED を探して「AED マップ」を作成する。</p>	<p>朝の会・帰りの会等で,登下校時に見つけた AED,危険な箇所,及び避難場所等を共有することで,安全・防災への意識を高める。</p>	<p>「身の回りの危険」だけでなく,地震,洪水,暴風等の災害を想定した具体的な対策を,家族と話し合い決めている。また,命の尊さを知ることで,いじめや自殺などへの意識を高め,問題解決に向け主体的な行動がとれる。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】(観察)</p>

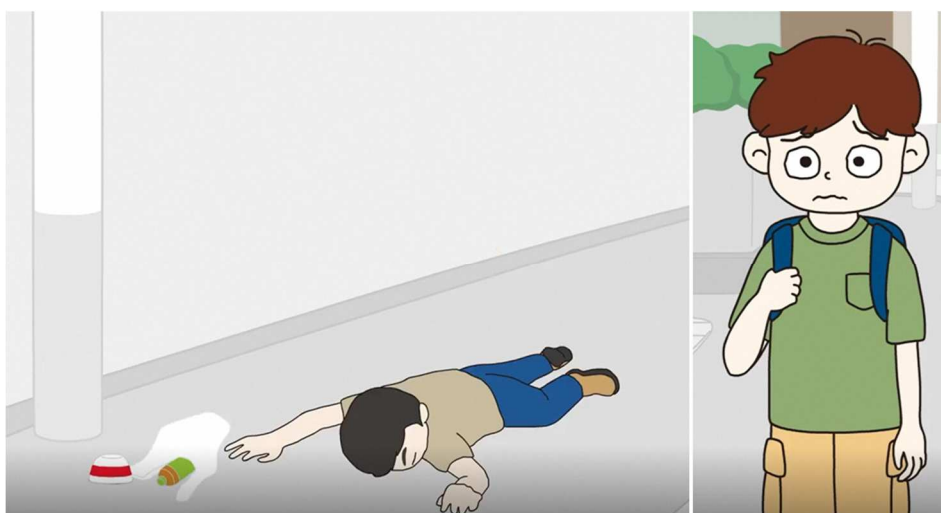
とつぜん ひと ゆうき だ
突然,人が倒れたとき,勇気を出してかかわろう!

6年 組 番 名前 _____

ワーク1

ともだち あそ やくそく やくそく じかん おく いそ あし こうえん む
友達と遊ぶ約束をしていた A さんが,約束の時間に遅れそうになり急ぎ足で公園に向かっていたところ,
知らない人が目の前で突然倒れました。

じょうきょう み しょうがくせい きもち そうぞう か
この状況をみた小学生の気持ちを想像して書いてください。



【ルール】

- ・ 1つの短冊に1つの意見を書きます (横書き)。
- ・ できるだけたくさんのお見解を出します。
- ・ 出てきたお見解について反対お見解は言いません。

ワーク2 とつぜん,人が倒れたとき,「自分にできること」を書いてみよう。